

2014年5月8日

フットサルリボン第5回慰問レポート

日時：2014年5月7日 14時30分～17時20分

場所：茨城県内 大学病院

対象：小児科病棟入院患者（59人）

協力：株式会社ドリブルジャパン、株式会社アントレックス

概要： 1、動ける子どもたちを集めてボールを使ったアクティビティ
2、アクティビティに参加できなかった子どもたちを個別に慰問

訪問者：湘南ベルマーレフットサルクラブ
株式会社アントレックス

久光 重貴選手
レックス（着ぐるみ）

実施レポート

1、動ける子どもたちを集めてボールを使ったアクティビティ（30分）

動ける子どもたちとご家族にホールに集ってもらい、ボールを使った遊びをしました。参加した子どもは1歳から11歳までの16人でした。さらにご家族や保育士さん、看護師さんらも参加してくださったので会場はとても賑やかになりました。久光選手は最初に挨拶の中で自身が病気と闘っていることを伝えました。



早速、子どもと大人でペアになり、ボールを使ってゲームをしました。「右」と言われたら右足をボールに置くのですが、車椅子に乗った女の子もお父さんと一緒に手で参加してくれました。



赤ちゃん、小学生のお兄ちゃんやお姉ちゃん、お父さんやお母さん、病院の人もみんなが笑顔でアクティビティに参加してくれました。



そして、いよいよ久光選手のボールを取ってみよう！のコーナーが始まりました。最初は「ボールを取れると思う人」と尋ねても誰も手を挙げなかったのですが、「最初から諦めずにチャレンジしてほしい」と久光選手が呼び掛けると何人もが勇気を出してチャレンジしてくれました。



2、アクティビティに参加できなかった子どもたちを個別に慰問（120分）

アクティビティに参加できなかった子どもたち 43 人を久光選手が着ぐるみのレックスと一緒にまわりました。比較的いつもより年齢層が高かったので、ひとりひとりと色々なお話をしながらプレゼントを渡したり握手や写真撮影をしました。少し身体を動かせる子どもとは病室でパスをしたり、久光選手のドリブルを披露しました。レックスも大人気でした。







感想

●病院側から

- ・何よりも子どもたちが喜んでくれてそれが一番です。
- ・ぜひまた来てください。
- ・先生や看護師も参加できて自分たちも楽しかった。
- ・病院での思い出が作れて良かった。

●子どもたちの感想（お手紙）から

<p>きょう せんしゆ き 今日はフットサル選手が来てくれたりプレゼントをもらってどうでしたか？ この紙に感想を書いて看護師さんにわたしてね！</p> <p>フットサル選手のボールをとってうれしかったです。プレゼントももらってサインももらって良かったです。</p> 	<p>きょう せんしゆ き 今日はフットサル選手が来てくれたりプレゼントをもらってどうでしたか？ この紙に感想を書いて看護師さんにわたしてね！</p> <p>きてくれありがとうどうもございました。ほくがひさみフセンのよけたボールを10個ほどとれるかを持ってボールをけつたときうれしくてよかったとおもいました。サインうれしかったです。ほくもか人はります。ひさみフセンしゅをおうえんしています。</p> 
<p>きょう せんしゆ き 今日はフットサル選手が来てくれたりプレゼントをもらってどうでしたか？ この紙に感想を書いて看護師さんにわたしてね！</p> <p>ありがとう がんばって</p> 	<p>きょう せんしゆ き 今日はフットサル選手が来てくれたりプレゼントをもらってどうでしたか？ この紙に感想を書いて看護師さんにわたしてね！</p> <p>きょうはいつぱいたのよかった</p> 

- ・みんなと同じシリコンバンドを着けられたから大切にします。
- ・退院したらフットサルをやってみたい。
- ・友達と一緒にボールを蹴って遊べたことが楽しかった。

●親御さんから

- ・ネットでフットサルリボンのことを見ました。
- ・退院したら兄弟を連れて試合を観に行きます。
- ・（お父さんから）自分もサッカーをやっていて好きだけど、フットサルを観に行きたい。
- ・辛いのは自分たちだけじゃないと思ったし、一緒に頑張ろうと言ってもらったので子供と一緒に私も頑張ります。

●選手から

- ・今日出会った子どもたちやご家族は関東に近いので、「試合を観に行きます」という言葉により信憑性を感じた。いつ試合を観に来てくれても自分の姿がピッチにあるように練習を頑張り

たい。

- 短い時間だったけど、元気な子が多くてみんなに楽しんでもらえてよかった。
- 何回か慰問を行ったけれどフットサルのお陰でたくさん子どもたちやそのご家族と会うことができ、そのたびに自分が勇気をもらう。